

2025年5月10日(土) ニューノーマルの時代の究極のSQメンター育成「メンタリングマインド&スキル開発」

第1回



吉川 宗男

**フォーカス： 共生（創）力、新価値創造力、統合力、状況対応力、相互支援力、共感力、信頼関係構築力**

受講生一人ひとりが究極のSQメンター像を目指し、人間力モデルとメンタリングプロセスをベースにその究極SQメンターマインドとスキルを開発していきます。結果として、これからの企業や社会を支援していける究極なSQメンターになれるよう支援指導します。

2025年6月21日(土) メビウス思考で気づきを行動に変える「認識者」メンターになる

第2回



李 順葉

**フォーカス： 自己認識力、洞察力、内省力、人間関係構築力、受容力、ビジョニング**

AI時代が到来し、効率化が進む一方で、目的をつくることはAIにはできません。目的や意味をつくれるのは人間だけです。この講義では、メビウス思考をベースに、自分自身と他者からの認識を深め、気づきを行動に変える力を養います。他者からのフィードバックを受け入れ、自己理解を深めることで、メンターとしての資質が高まります。また、自分が何を成し遂げたいのかをメビウスマップ™のフレームワークを通して明らかにしていき、行動につながるアクションプランを作成します。

2025年7月5日(土) メンターの自己認識力を高める「個人のMission & Ikigaiの創造」

第3回



鷺見 健司

**フォーカス： 自己認識力、他者理解力、人間力、自己MVPの明確化**

自己を知ることはあらゆる人（メンティー）にとって自己実現、人生の充実のための起点となる。自己認識（セルフアウェアネス）力はVUCA時代の世界のビジネスリーダーの最重要素養として新たな常識となりつつある。「新しい時代の働き方」や「ニューノーマル」が求められるなかでその重要性は更に高まっており、マインドフルネスの起源である仏教の本質も自己を知ることである。自己認識を強化するために、曖昧に捉えられがちな「人間力」を科学的に定義した「全人的人間力」のフレームワークを通じて自己を分析する。「全人的人間力」の5つの力の芯となる「活力」の主要構成要素である自分自身のミッション、ビジョン、ビジョン、価値観（Values）の明確化を通じて自己認識強化を図る。

2025年8月2日(土) 意欲と能力を引き出す「メンターの思考習慣」

第4回



林 哲也

**フォーカス： 共創力、洞察力、相互支援力、引出し力、自己理解力**

人を導くメンターとして、必要な「思考習慣」とは何かをワークを通じて学びます。メンターとして「自立」とはどういうことか、メンターがメンティを信頼し、相互作用を生み出すとはどういうことかを学びます。また真に自立し、自立した人同士が相乗効果を発揮するとどのような効果を生み出すのかを体感し、自身のメンタリングに活かしていきます。

2025年9月6日(土) 体の動きと心の動きの統合「傾聴力」

第5回



梶谷 久美子

**フォーカス： 傾聴力、共感力、他者理解力、コミュニケーション能力**

多様性の社会で生きる私たちには、お互いの異なる「考え方」「感じ方」「行動のし方」を理解し、信頼関係を築いていくためのコミュニケーション能力が必要です。そこで求められるのが、相手の発するメッセージをしっかりと受けとめ、相手の心を開き、相手の本音を引き出す「傾聴力」です。傾聴の「聴」は、耳だけでなく、10の目と心を伴い、「相手の心に寄り添う」という意味です。相手の心に寄り添うために必要な心のもちようや態度・行動とはどのようなものなのでしょうか。傾聴するための心と体の整え方と使い方を学んで傾聴力を向上させませんか。

2025年10月4日(土) メンターズスキル”新価値創造「クリエイティブチョイス」

第6回



堀内 浩二

**フォーカス： 選択力、洞察力、ロジカルシンキング、直観力**

事業を始めるか始めないか、転職するかしないか。わたしたちの仕事や生活は二者択一に思える選択肢に満ちています。功罪相半ばする選択肢から、どちらかを選ばなければなりません。多くの場合は期限付きで、じっくり考える時間はありません。しかし問題を性急に「XかYか?」「イエスかノーか?」と絞り込んでしまうと、他にあり得た選択肢を見逃してしまうおそれがあります。本講座ではそのような問題にどう取り組み、選択肢をどう創り出し、選択に対する満足度をどう高めるかを考えていきましょう。

2025年11月1日(土) 統合セッション

第7回



吉川 宗男

この統合セッションはIMGSのキー概念であるメビウス論と五つの人間力に基づくグランドデザインを軸として、プレゼンされた六つの授業を総括するセッションであり、受講生は受けた六つの授業からの学びを、独自のスタイルでまとめ、統合する。それを授業でプレゼンし、講師をはじめ全員からフィードバックを受け、自らのさらなる学習へとつなげていくとても大切なセッションである